

2023年～2025年 3年間実施計画

子育て、高齢者新規なし 残り1年ねぎた市政の施策

実施計画の新施策9

事業	期間	事業費
①碧南用水上部整備事業 パイプライン化された碧南用水の上部が砕石のまま引き渡され、隣接用水との段差解消など整備。	R 5～R 8	2億158万円
②農業振興地域整備計画定期変更事業 農用地の利用・保全・生産基盤の整備のための計画見直し。	R 5～R 6	1156万円
③北部産業用地立地促進事業 進出企業への補助	R 5～R 7	3646.4千万円
④カーボンニュートラル推進支援補助 中小業者の省エネ再エネに1/3 150万円補助25件分	R 5～	年4000万円
⑤防犯カメラ設置促進事業 5台以上の民間駐車場へ、16万円上限30件予定	R 5～R 7	2940万円
⑥保育総合システム運用事業 登降園の管理などICT化	R 5～	年186.2万円
⑦学校部活動地域移行支援事業 「運動部」の指導員の配置	R 5～	年1679.4万円
⑧学校部活動地域移行支援事業 「文化部」の環境整備	R 5～	年286.3万円
⑨スポーツ振興基金積立事業	R 5～	1億円→2500万円

変えよう！希望ある市政に
1月31日、市議会協議会が開かれ、令和5年度から令和7年までの3年間の実施計画が報告されました。

市政は、10年ごとの総合計画をもとに、財政計画として3年間実施計画をローリングで作成して施策を進めていきます。

ねぎた市政は、2008年から15年間。うち11年間は無投票で市民の審判もなく進められてきました。市民の願いにそっぽをむき、気候危機対策も遅々として進みません。今期は残り1年の任期ですが、市民の要求実現は皆無です。

統一協会を容認し、人権侵害も不問にする民主主義と相いれないねぎた市政は、弱い市民にとっても冷たい態度です。みんなの力で、住民第一の市政に変えましょう。

遅ればせ、中小業者の省エネ・再エネ補助
気候危機打開が緊急の課題になっているのに、北部工業用地や臨海2号地に進出した企業に補助金を出しながら、再エネ省エネの推進は不問にしました。やっと2023年度から上限150万円の補助が実施されますが、推進条例など工場も一般住宅も省エネ再エネ推進、自家発電自家消費のZEH、ZEBの位置づけもされていません。本気の気候危機対策が求められます。

18歳まで医療費無料化、給食無料化
全国で18歳までの医療費や学校給食の完全無料化が進んでいるのに、今後3年間、実施の計画が盛り込まれていません。東京都では少子化対策に大きく舵を切っています。出生率の低い、碧南市の現実には、目を向け抜本的な対策が緊急に必要です。

第6回西三河市議会議員合同研修会

「どうつくる？持続的な社会」

—気候危機をイロハから— 室山 哲也氏

西三河9市で巡回する研修会が1月31日、3年ぶりに豊田市で開催されました。「クローズアップ現代」や「NHKスペシャル」のプロデューサー、解説主幹などしてきた、日本科学技術ジャーナリストの室山哲也氏から約2時間の話でした。SDGSの17項目はどの項目からも水脈のように自然破壊や気候危機にたどりつく。戦争は最大の自然破壊、人間が起こしたこの危機に目をそらすことはできない。「ダメな市長」が環境問題に消極的。科学者はペロブスカイトなど柔らかで多様な太陽光発電、みどり虫を使ったエネルギー、「風レンズ」など新技術を生み出している。再エネのポテンシャルも全電気を生み出せるだけあると。政治家が、今の原発、石炭、アンモニアからの転換をするカギと。

少女の訴え、今こそ

最後に、27年前の1992年、リオデジャネイロで開催された地球サミットで、環境保護を訴えた12歳の少女、カナダ出身の日系4世、セヴァン・カリス=ズキさんのスピーチを紹介。胸に刺さった。「学校で、さらには幼稚園でも、あなたがた大人は私たちにどのように行動すべきかを教えます。喧嘩をしないこと、他人を尊重すること、散らかしたものを片付けること、生き物を傷つけないこと、物惜しみせず分かち合うことなどと。ならば、あなたがたはどうして、『するな』と私たちに行ったことをしているのでしょうか？」

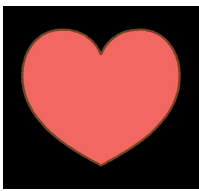
「言葉だけでなく、実際に行動を起こしてくださるようお願いいたします」。拍手喝采を浴びたスピーチは、現在でもインターネット上でシェアされ続けています。

スポーツ基金はゴリ押し
12月議会でも、議員から問題が指摘された「スポーツ振興基金」令和5年は1億円、次年度からは年2500万円のスポーツ施設使用料を基金に積みみます。

無投票の市長がマニフェストに掲げたからと、ゴリ押しするのです。

③県政を変えてくらしと平和を守ろう

野党共同の勝利で ストップ気候危機



安心の暮らし ジェンダー平等

(前号につづき、政策の一部を紹介します)

5、社会保障の強化と平和・民主主義の復活 格差・貧困・不公平がはびこる、こんな社会を未来世 代に渡せますか？！

(1) 保健・医療の充実 (7行目まで再掲載)

保健師の増員。感染症対策など保健所機能を拡充する。
介護士などケア労働の給料アップへの補助を行う。
保健センター・福祉事務所・地域包括支援センター・医療機関・介護施設などと協力して、学区単位での「地域包括ケア(健康なまちづくり)」のネットワークづくりを行う。

公立・公的病院の病床削減はしない。
看護師を養成する奨学金の復活・拡充を行う。
PCR検査や抗原検査を希望する人に「だれでも、いつでも、何度でも、無料で」受けられる体制を確立する。
高すぎる国民健康保険料均等割額を現行より一人一万円引き下げる(国民健康保険制度への国庫負担増額を国に求め、市町村国保への補助金を復活することにより実現)。
特定不妊治療保険適用に伴う、保険適用外となった治療については、これまでの県の助成事業を踏まえて助成を継続する。

(2) 介護の充実

おとしよりが安心して暮らせる介護をはじめ生活環境の保障を行う。
介護保険料の原則2割化など利用者負担増を撤回するよう国に要求する。
低所得者の介護保険料・利用料を無料にする制度を新設する。介護士の給料アップを県が補助。介護保険料を引き下げる。

(3) 社会福祉の充実

利用しやすい生活保護制度と生活困窮者への福祉改善を市町村に働きかける。
生活保護受給者に冷房費用を支給。
外国人が県内で生活するために必要な情報を多言語で配布する。
夜間中学を増やし、日本語教育を充実する。

(4) 平和と民主主義

「非核平和愛知宣言」で、核兵器の廃絶を宣言する。
日米地位協定の見直しを求める。
県営名古屋空港の軍事的機能強化を認めない。
軍備増強より憲法を生かした平和外交を国に要請。

=まだまだ皆様のお声を聴いてまいります=

Eテレ「100分で名著」が伝える
非暴力で政治を変える
選挙で政治を変えられる

さあ行こう投票へ

名著126「独裁体制から民主主義へ」ジーン・シャープ



「独裁体制から民主主義へ」アメリカの政治学者ジーン・シャープ(1918- 2018)が、史上暴政をふるった数々の独裁体制を綿密に分析、それに対し非暴力による反体制運動がどこまで効果を上げることができるかを徹底的に究明した名著です。武力が戦争を呼ぶ。専制攻撃を痛烈に批判。(NHKのHPより)

岸田軍拡戦争への道に今こそ「選挙」で審判を。
気候危機、いのち軽視の県政を変える時です。



日本共産党碧南市議員団のホームページをごらんください。

日本共産党碧南市委員会



市議会議員 市議会議員 市民運動部長
山口はるみ 岡本守正 磯貝明彦
☎42-8940 ☎41-5357 ☎48-2718
三度山町 2-70-4 笹山町 6-29 若松町 3-253

午前11時～12時 ピアゴ碧南東店
東浦町6-17 (日進小学校南)

2月19日 日曜日

へきなん 19行動

戦争法廃止改憲許すな

- ・保育士ふやせ
- ・学校給食無料に
- ・18歳までの医療費無料に
- ・気候危機打開
- ・ジェンダー平等
- ・消費税減税

